

試験研究成果普及情報

部門	野菜	対象	普及
課題名: グリーンアスパラガスの半促成長期どり栽培法			
[要約] 本県下で半促成長期どり栽培を行うには、保温開始は12月18～1月1日頃、春芽収穫期間は開始から8週間、立茎本数は太い茎4本または5本、摘心位置は地際から130cm、夏秋芽収穫期間の追肥量は窒素成分量18kg/10aにする。			
キーワード(専門区分) 栽培 (研究対象) 野菜ーアスパラガス (フリーキーワード) アスパラガス、立茎、長期どり			
実施機関名 (主査) 農業総合研究センター生産技術部野菜研究室 (協力機関) (実施期間) 1998年度～2001年度			

[目的及び背景]

アスパラガスのハウス半促成長期どり栽培は、慣行の露地栽培に比べ収量が格段に多く、病害が少ないため、本県でも有望な品目と考えられる。そこで、本県の気象条件に適したアスパラガスハウス半促成長期どり栽培法を確立する。

[成果内容]

半促成長期どり栽培は、本県では以下のように栽培することで多収となった。

1. 年間の上物収量が多い春芽収穫期間は、収穫開始8週間であった。過度な春芽収穫を行うと、立茎数を確保するのに期間を長く要し、夏秋芽収量が少なかった(図1)。
2. 夏秋芽の上物収量が多い立茎本数は、「ウエルカム」は5本立茎が、「グリーントワー」は2L以上の太い茎で4本立茎が適していた(図2)。
3. 春芽の上物収量が多い保温開始時期は、「ウエルカム」は12月18～25日頃、「グリーントワー」は12月25日～1月1日頃であった。「グリーントワー」は、早すぎる保温開始により収量が低下した(図3)。
4. 夏秋芽の上物収量が多く、養分を多く貯蔵根に転流する立茎の摘心位置は、地際から130cmであった(図4)。
5. 夏秋芽収穫期間の追肥量は窒素成分量18kg/10aとし、140日タイプの緩行性肥料を用いることにより、追肥作業の省力化が可能である(図5)。

[留意事項]

1. 栽培は図6の栽培歴に基づいて行い、品種は「ウエルカム」(サカタのタネ)または「グリーントワー」(協和種苗)とする。
2. かん水は週に2～3回、1回当たり3mmとし、土壌表面が常に湿る状態とする。

[普及対象地域] 本県全域

[行政上の措置]

[普及状況] 千葉地域、夷隅地域を中心に普及

[成果の概要]

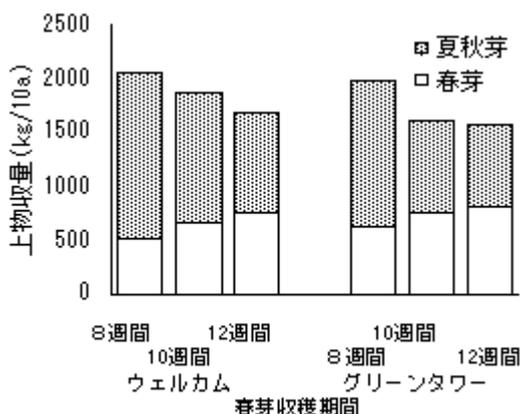


図1 春芽収穫期間が異なるアスパラガスの年間収量

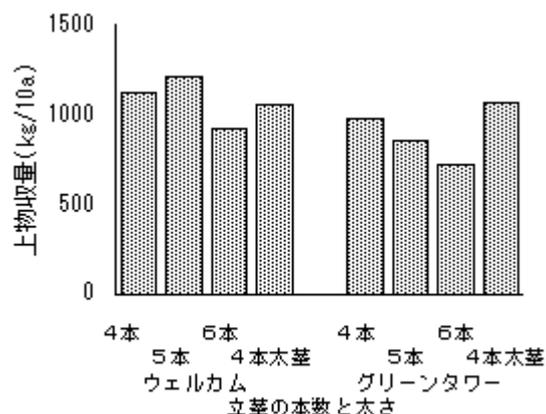


図2 立茎の本数と太さが異なるアスパラガスの夏秋芽収量

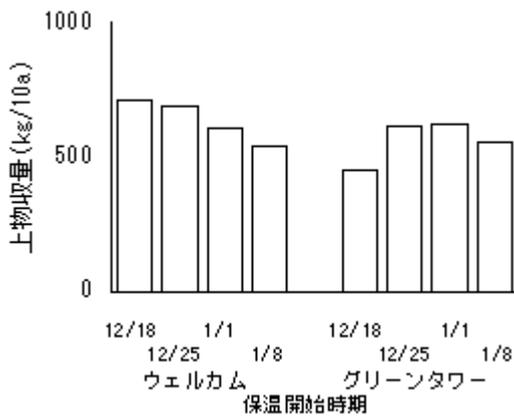


図3 保温開始時期が異なるアスパラガスの春芽収量

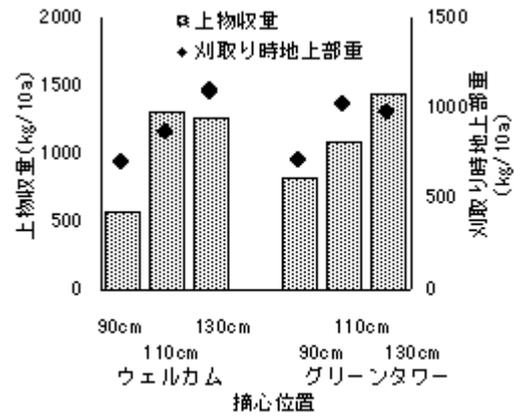


図4 摘心位置が異なるアスパラガスの夏秋芽収量と刈取り時地上部重

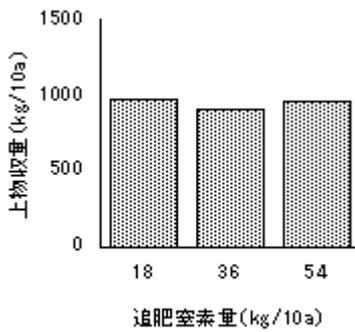


図5 追肥量が異なるアスパラガスの夏秋芽収量

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12			
初年度		○ 播種		△ 定植											
		土壌改良	基肥	かん水	かん水	追肥	茎整理	倒伏防止	防除	収穫開始	収穫終了	転流促進			
												刈取り・排土			
2年目以降	◇ 保温開始	◇ 収穫開始	◇ 温度管理	◇ 春芽収穫	◇ 春肥・堆肥	◇ 立培	◇ 培土	◇ かん水	◇ 追肥	◇ 茎整理	◇ 倒伏防止	◇ 防除	◇ 収穫終了	◇ 転流促進	◇ 刈取り・排土

図6 半促成長期どり栽培の栽培暦

[発表及び関連文献]

平成10-13年度野菜試験研究成績概要集(公立) - 関東東海 I - (野菜茶業試験場編)
千葉県農業総合研究センター研究報告第2号